

## 土木の貴重映像を残す重要性と課題 —文化映画委員会初代委員長金森誠之の製作映画を例にして—

(一財)全国建設研修センター 正会員 ○榊山 清人

### 1. 目的

本委員会は、「土木技術者の啓発ならびに土木技術の普及を効果的に行うため土木技術に関する映像について研究し、それを効果的に活用することより、土木技術の継承および共有化を推進することを目的とする」という規定がある。その一環として「貴重映像の発掘」も調査範囲としている。例えば、NHK ニュースやテレビ朝日「やじうまテレビ」が話題として取り上げた「勝鬨橋」(昭和15年)(写真-1)の映像は土木学会図書館に眠っていたものを発掘した。その他にも「秋田男鹿地方地震の被害」(昭和14年)(写真-2)、「三国国道」(昭和15年)など貴重映像を発掘し土木学会のホームページで見られるようにしている。これらの作品は土木学会が所蔵していた関係もあり日の目を見ることになった。しかし、まだ沢山の土木の貴重映像が眠っていると考えられる。本論文では、このような貴重映像を残す重要性と課題について問題提起するものである。



写真-1 土木文化映画委員会製作  
「勝鬨橋」

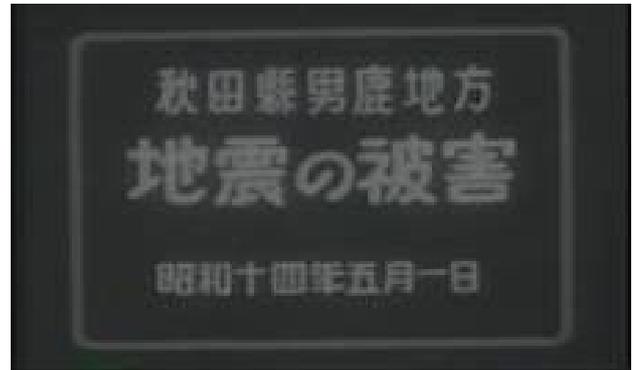


写真-2 土木文化映画委員会製作  
「秋田男鹿地方地震の被害」

### 2. 土木学会文化映画委員会とは

戦前にも今日の土木技術映像委員会の前身と言ふべき「文化映画委員会」(初代委員長・金森誠之<sup>しげゆき</sup>)が存在した(昭和11年設立)。設立趣旨は「本委員会の作製する土木文化映画は土木に関する技術を紹介普及し並びに文化進展に重要な役目をなしつつあることを認識せしめ進んでは本邦土木技術を世界に紹介するものなり。」とあり、文化映画を通じて土木技術者の向上、土木の役割の国民的認識の变革を目論んだとも思われる。他の主委員会のメンバー(経歴略)は、片平信貴、金子柁、藤森謙一、大石義郎、龍尾達也、廣田孝一、下山重丸(撮影を担当)などがおり委員会の自主映画製作に貢献している。

また、同委員会は昭和9年～18年までに講演会とともに映画会を開催しており、映画会は支部を含め70回、参加者数は延べ17,000名を超えている。

### 3. 金森誠之の制作映画<sup>1) 2) 3) 4)</sup>

金森誠之は明治25年に和歌山に生まれ、大正5年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後、内務省に入り27年間土木局に奉仕し、その間地方建設局の地位まで得た土木官僚である。ただ彼は驚くほど多彩な人で

---

キーワード 土木文化映画委員会, 金森誠之, 貴重映像, 可燃性ネガ

連絡先 〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2 (一財)全国建設研修センター TEL042-300-6866

あった。趣味の社交ダンスでも昭和6年に「力学的に見た社交ダンス入門」を著している。また、詳細は省くが、「金森式鉄筋煉瓦」と「まさかり杭」なども発明や特許の中でのひとつである。それに加えて土木技術者を主人公にした映画は特筆すべきであろう。ロケ地を探し、脚本を書き、また自ら監督をすることもあった。さらに川崎弘子や筑波雪子という女優の芸名までも名づけている。金森が雑誌に連載した記事の中で「酬いられぬ人」、「混凝土道路」、「国道八号線」は映画化されている。その中のひとつの作品に、映画化された「酬いられぬ人」は大正10年、印旛水門の竣工式が盛大に行われた時、情熱を傾けて設計、施工した土木技術者に光が当たらないで、地元の代議士を讃える光景を目の当たりにした金森の不満な気持ちを題材にしている。

#### 4. まとめ及び今後の課題

貴重映像を残す重要性は過去の論文や写真だけでは見えない部分を解析し、新発見につながる可能性がある。貴重映像は例えば土木学会の図書館、工業高校などの資料整理時など様々な形で発見されるが一昨年土木学会へ(株)IMAZIKA<sup>5)</sup>から問合せが寄せられた。(株)IMAZIKAは、昭和10年京都太秦で誕生し、わが国で初めて自動現像機による映画フィルムの現像を開始したところであり、そこに土木学会文化映画委員会の金森誠之から映画を預かっていることが判明した(表-1)。昭和初期の作品なので可燃性フィルムであり、今後どのようにするのかの相談であった。映像委員会では、映像を観られる状態にしてもらうまでの見積もりをしてもらった結果全ての作品を発注すると高額になることがわかった(表-2)。

預り先名義	題名	監督(D・演出)	製作(P)	製作会社	撮影	企画・脚本	その他	コメント
土木学会	コンクリート道路 R-1	金森誠之	金森誠之 作品	T.R.K映画		原作・脚色: 金森誠之	「終」 津村理研映画部	ネガ
土木学会	コンクリート道路 R-2							
土木学会	コンクリート道路 R-3							
土木学会	荒川の水を治めて 全1巻		内務技師 金森誠之 作		撮影:杉本正次 郎/武富善雄		タイトル:富岡正次・ 石田静	白黒MP/TOP.END乳剤 剥がれ、ビネガー
土木学会	水門							ネガ/TOP.END乳剤剥が れ、ビネガー
土木学会	川崎河港竣工祝賀会 R-1							ネガ/ビネガー・乳剤剥 がれ
土木学会	川崎河港竣工祝賀会 R-2							ネガ/ビネガー・乳剤剥 がれ

作品名	金額(円)
コンクリート道路 R-1,2,3	320,000
荒川の水を治めて 全1巻	250,000
水門	110,000
川崎河港竣工祝賀会 R-1,2	210,000
合計	890,000

今後、貴重映像の所在場所がわかったとしても、戦前のフィルムは、可燃性フィルムである可能性が高く、見られる状態にするまではかなり高額になると予想される。また、そのままの状態に放置した場合、過去の土木技術映像も可燃性として廃棄処分される可能性が高い。どんどん貴重映像が消えていくという危険性をはらんでいる。今後、企業などに貴重映像の理解を求め、予算を確保する必要がある。

#### 参考文献

- 1) 土木学会土木技術映像委員会編: 土木映画の百年・「土木技術映像」100 特選ガイド, pp 16-19, 言視舎, 2014年
- 2) 藤井肇男: ほんのかわ (89), pp45-50, 日本河川開発調査会, 2000年
- 3) 藤井肇男: 「土木人物事典」, pp98-99, アテネ書房, 2004年
- 4) 坂本真至: 東京人, pp88-93, 都市出版(株), 2015年3月号
- 5) IMAGICA ホームページ: <http://www.adobe.co.jp/www.imagica.com/company/history.php>